第２章　子育てと両立支援について

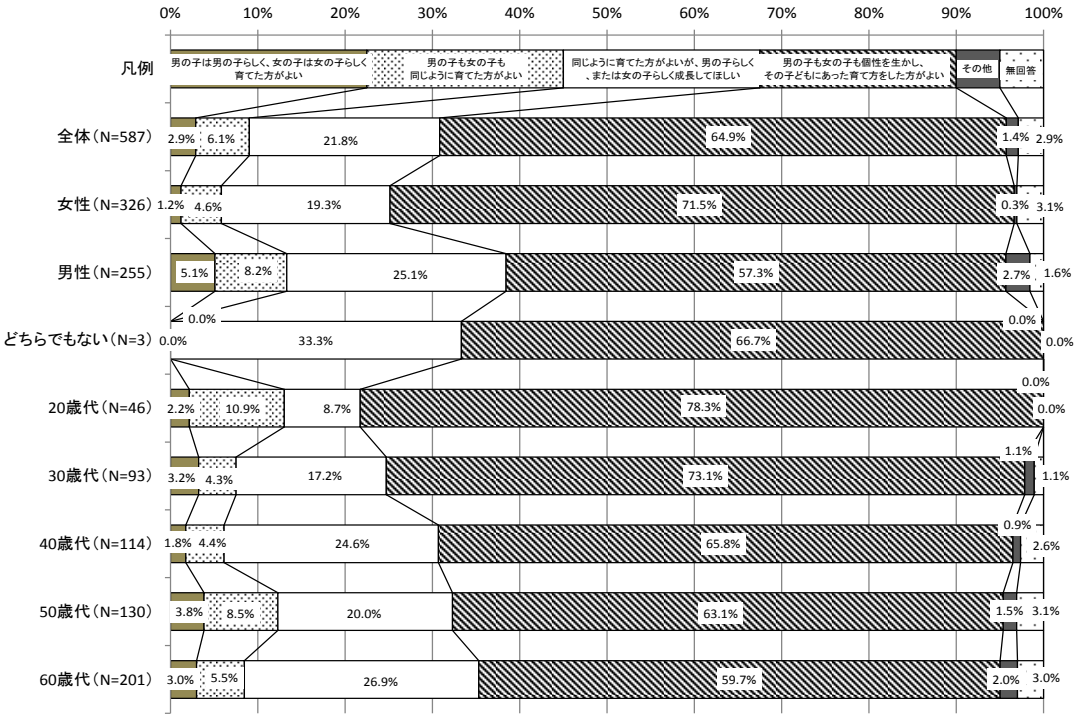
１．子どもの育て方

問１０　あなたは、子どもの育て方についてどのように考えますか。次の１～５の中から１つだけ選び、○で囲んでください。

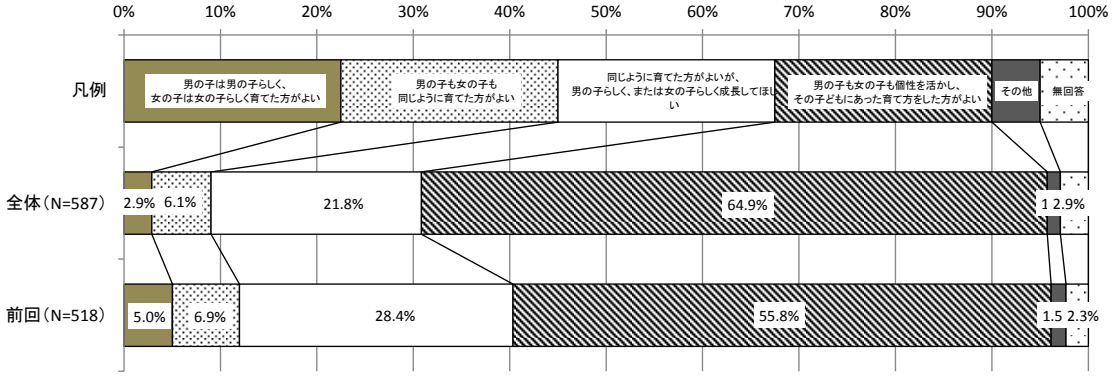
最も多かったのは、「男の子も女の子も個性を生かし、その子どもにあった育て方」64.9%、次いで「同じように育てた方がよいが、男の子らしく、女の子らしく成長してほしい」21.8%。「男の子も女の子も同じように育てたほうがよい」6.1%「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」2.9%となっている。

性別でみると「男の子も女の子も個性を生かし、その子どもにあった育て方」という意見は男性 57.3%、女性 71.5%と女性の支持が 14.2 ポイント高くなっている。

年代別ではどの年代も「男の子も女の子も個性を生かし、その子どもにあった育て方」が高く、中でも 20 歳代の 78.3%が最も高かった。



＜前回との比較＞



２．子どもの進学目標

問１１　あなたは、学力や家計の事情など条件が整っていると仮定した場合、子どもの進学目標をどの程度に置くのが望ましいと思いますか。次のア～イのそれぞれについて１つだけ選び、○で囲んでください。

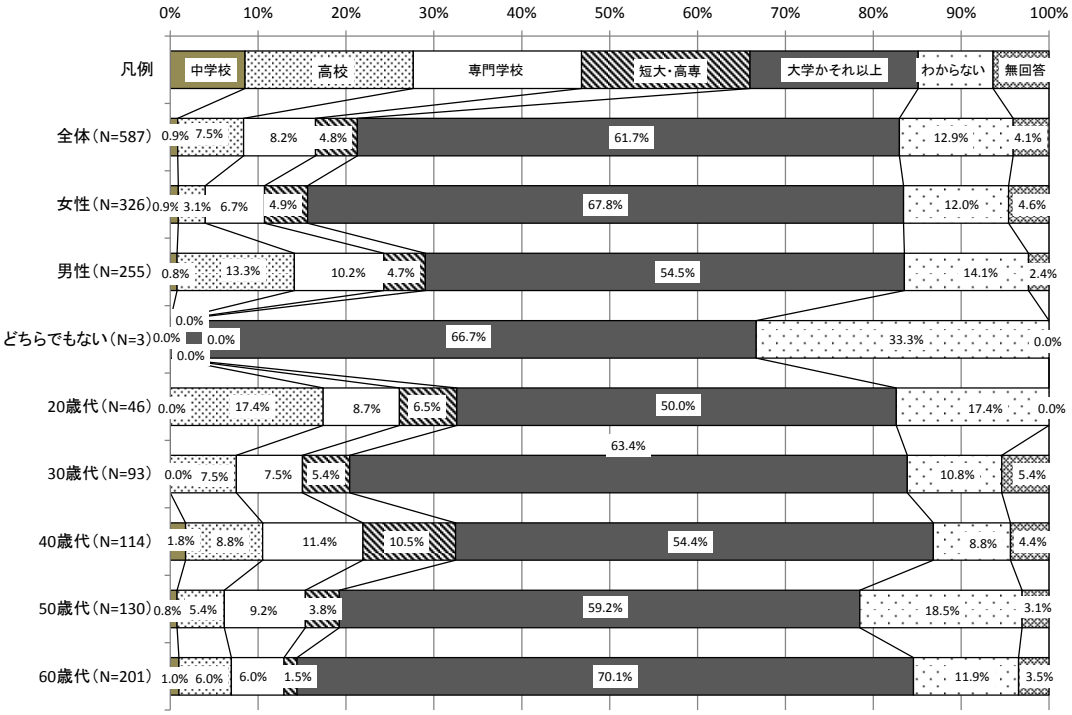
子どもの進学目標について、男の子と女の子の場合に分けて回答を求めている。

＜ア．男の子どもの場合＞

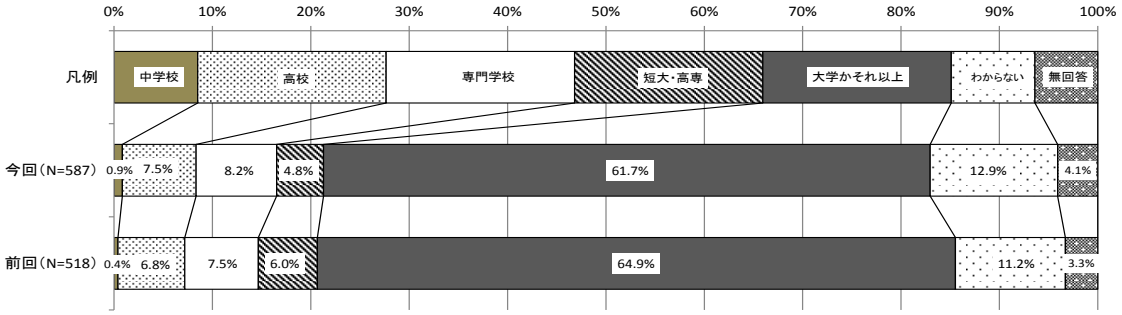
男の子の進路目標は「大学かそれ以上」61.7％を選択。「専門学校」8.2％、「高校まで」7.5％、「短大・高専」4.8％で、「中学校」0.9％はほとんど選択されなかった。

性別では大きな違いはなく、どの年代も「大学かそれ以上」が最も高かった。

前回調査からは「大学かそれ以上」が 3.1 ポイン低くなっている。



＜前回との比較＞

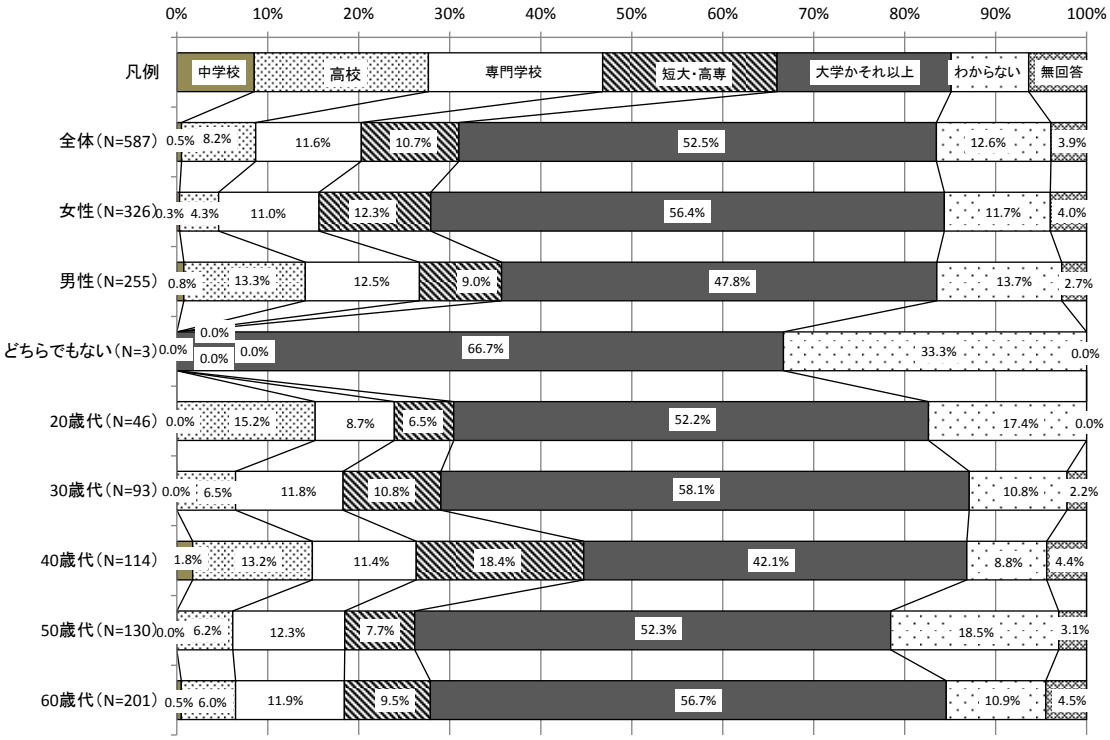


＜イ．女の子どもの場合＞

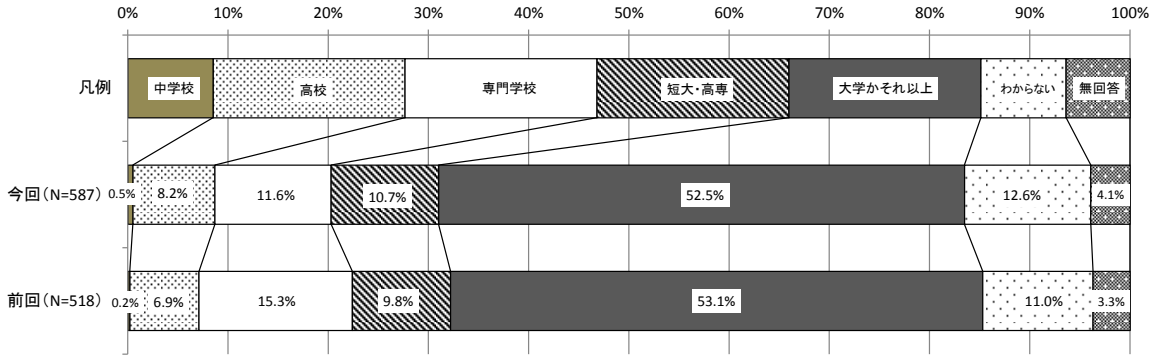
女の子の進路目標では「大学かそれ以上」52.5%、「専門学校」11.6%、「短大・高専」10.7%、「高校」8.2%、「中学校」0.5%の順だった。女の子の進路として「大学かそれ以上」の回答は、男の子の場合より 9.2 ポイント低かった。

性別では、「大学かそれ以上」は女性が多く、「高校」は男性が多く選択していた。年齢別ではどの年代も「大学かそれ以上」が一番高かったが、40 歳代は「短大・高専」を全年代の中で一番高かった。

前回調査からは「専門学校」が 3.7 ポイント減少したほかは、大きな変化はみられなかった。



＜前回との比較＞



３．出生率低下の原因

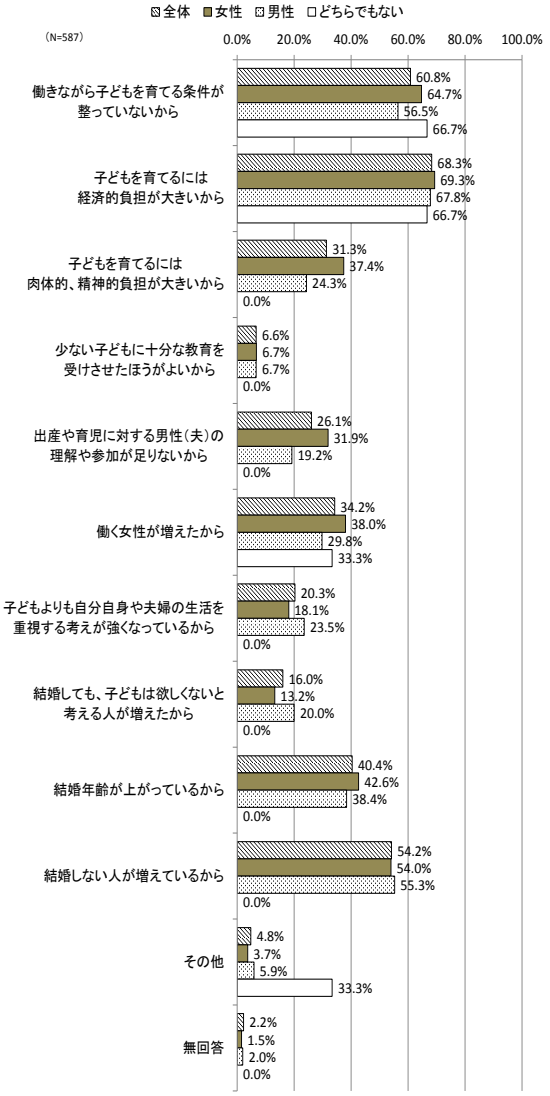
問１２　今、女性が一生に産む子どもの数が少なくなっていますが、その原因はどこにあると思いますか。次の１～１１の中から選び、○で囲んでください。（いくつでも）

出生率低下の原因として最も多くあげられたのは、「子どもを育てるには経済的負担が大きいから」68.3％であった。次いで「働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」60.8％、「結婚しない人が増えているから」54.2％の順である。

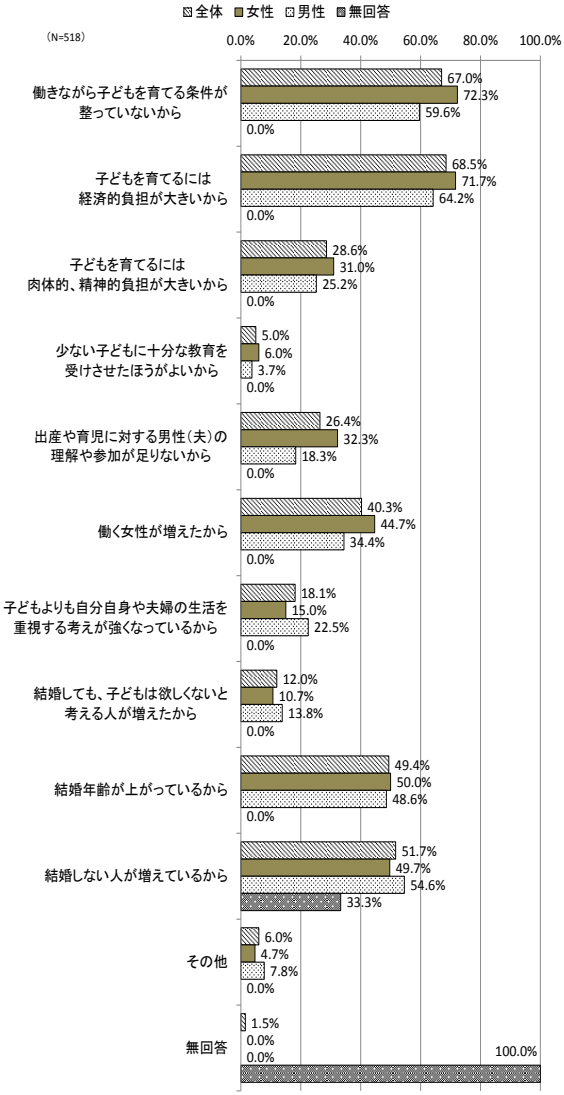
性別でみると、男性は「子どもを育てるのには経済的負担が大きいから」67.8％、「働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」56.5％、「結婚しない人が増えているから」55.3％に対し、女性は「子どもを育てるのには経済的負担が大きいから」69.3％、「働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」64.7％、「結婚しない人が増えているから」54.0％となった。

前回調査も同じ項目で質問しており、今回は前回に比べて「働く女性が増えたから」と「結婚年齢が上がっているから」が、それぞれ6.1ポイント、9.0ポイント低下している。

＜今回(R2)＞


全体
女性
男性
どちらでもない
（N=587）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
働きながら子どもを育てる条件が整っていないから
60.8%
64.7%
56.5%
66.7%
子どもを育てるには経済的負担が大きいから
68.3%
69.3%
67.8%
66.7%
子どもを育てるには肉体的、精神的負担が大きいから
31.3%
37.4%
24.3%
0.0%
少ない子どもに十分な教育を受けさせたほうがよいから
6.6%
6.7%
6.7%
0.0%
出産や育児に対する男性（夫）の理解や参加が足りないから
26.1%
31.9%
19.2%
0.0%
働く女性が増えたから
34.2%
38.0%
29.8%
33.3%
子どもよりも自分自身や夫婦の生活を重視する考えが強くなっているから
20.3%
18.1%
23.5%
0.0%
結婚しても、子どもは欲しくないと考える人が増えたから
16.0%
13.2%
20.0%
0.0%
結婚年齢が上がっているから
40.4%
42.6%
38.4%
0.0%
結婚しない人が増えているから
54.2%
54.0%
55.3%
0.0%
その他
4.8%
3.7%
5.9%
33.3%
無回答
2.2%
1.5%
2.0%
0.0%

＜前回(H27)＞


全体
女性
男性
無回答
（N=518）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
働きながら子どもを育てる条件が整っていないから
67.0%
72.3%
59.6%
0.0%
子どもを育てるには経済的負担が大きいから
68.5%
71.7%
64.2%
0.0%
子どもを育てるには肉体的、精神的負担が大きいから
28.6%
31.0%
25.2%
0.0%
少ない子どもに十分な教育を受けさせたほうがよいから
5.0%
6.0%
3.7%
0.0%
出産や育児に対する男性（夫）の理解や参加が足りないから
26.4%
32.3%
18.3%
0.0%
働く女性が増えたから
40.3%
44.7%
34.4%
0.0%
子どもよりも自分自身や夫婦の生活を重視する考えが強くなっているから
18.1%
15.0%
22.5%
0.0%
結婚しても、子どもは欲しくないと考える人が増えたから
12.0%
10.7%
13.8%
0.0%
結婚年齢が上がっているから
49.4%
50.0%
48.6%
0.0%
結婚しない人が増えているから
51.7%
49.7%
54.6%
33.3%
その他
6.0%
4.7%
7.8%
0.0%
無回答
1.5%
0.0%
0.0%
100.0%

第３章　仕事・家庭生活・地域生活について

１．男性の家事等への参加の促進

問１３　男女がともに家事・子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の１～１２の中から選び、○で囲んでください。（いくつでも）

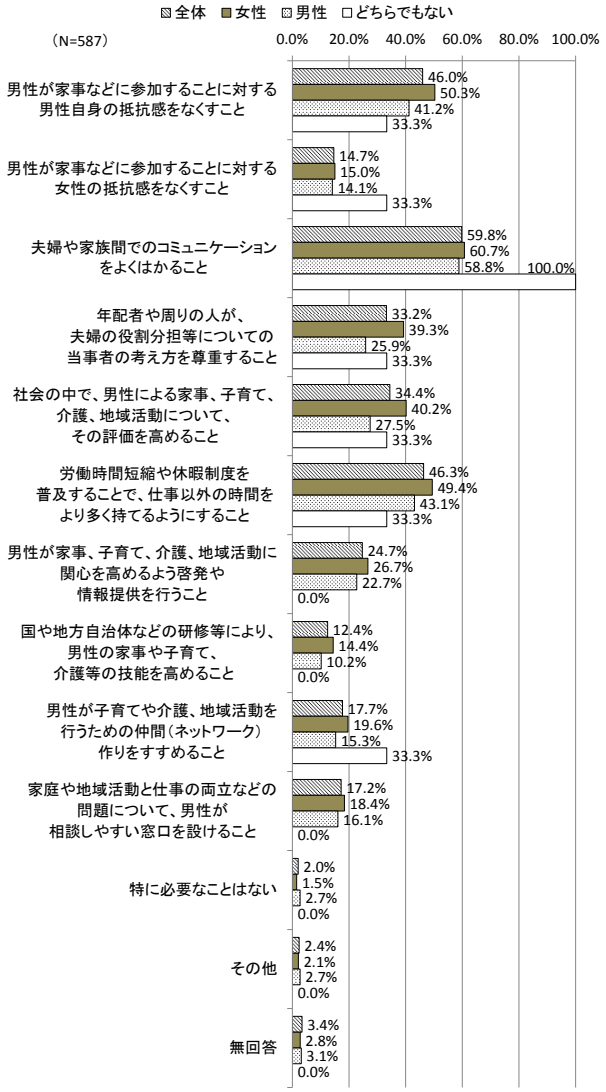
男女がともに家事等へ積極的に参加していくために必要だと思うことについては、多い順に、「夫婦や家族間でコミュニケーションをよくはかること」59.8%、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」46.3%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗をなくすこと」46.0%であった。

性別では、男性も女性も多い回答は全体の場合と同様であるが、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は 6.3 ポイント女性が高い。また「年配者や周りの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する」は 13.4 ポイント女性が高く、男女差がある。

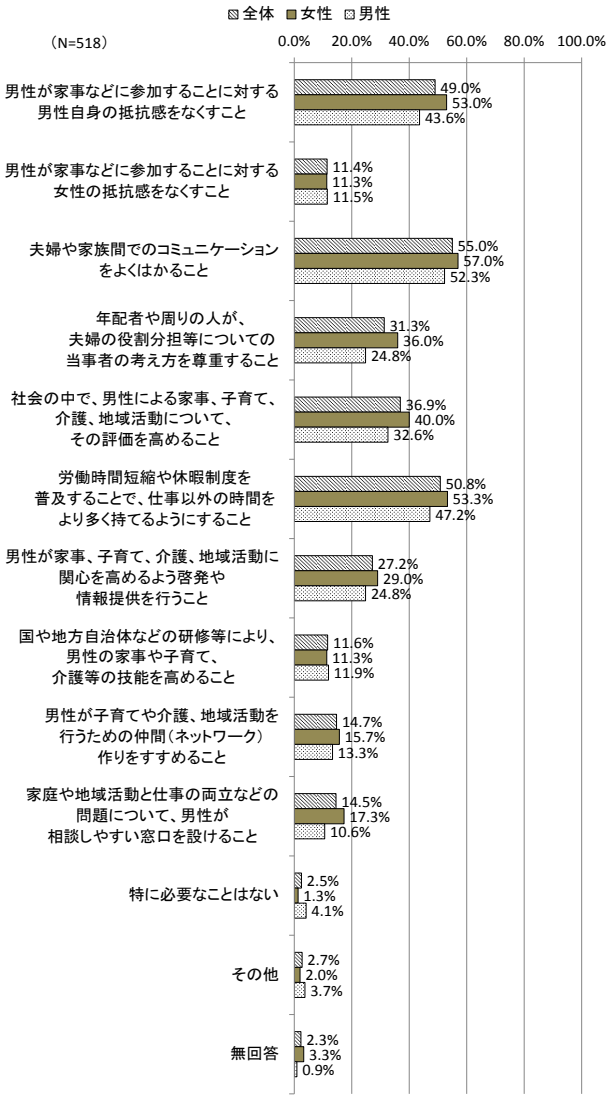
前回結果との大きな違いはなかった。

熊本県との比較ではすべての項目で回答比率が低い。

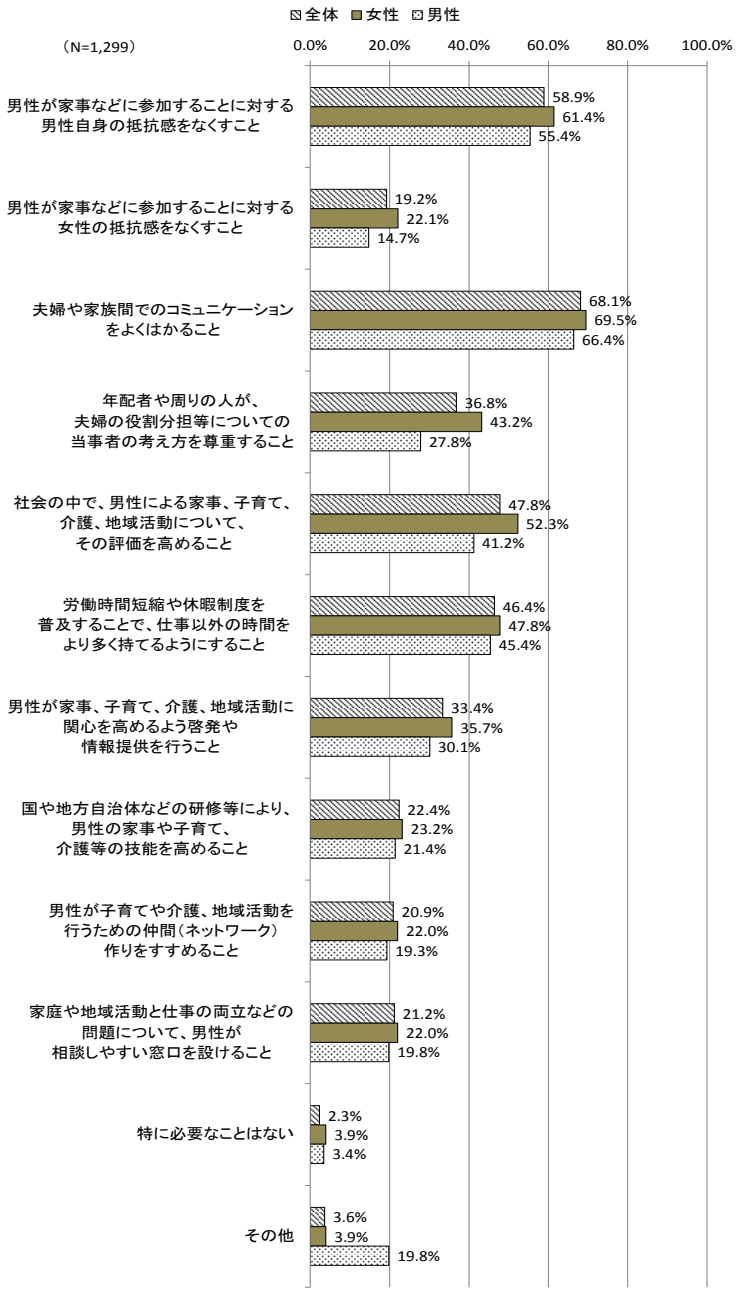
＜今回(R2)＞


全体
女性
男性
どちらでもない
（N=587）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
46.0%
50.3%
41.2%
33.3%
男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
14.7%
15.0%
14.1%
33.3%
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
59.8%
60.7%
58.8%
100.0%
年配者や周りの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
33.2%
39.3%
25.9%
33.3%
社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること
34.4%
40.2%
27.5%
33.3%
労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
46.3%
49.4%
43.1%
33.3%
男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
24.7%
26.7%
22.7%
0.0%
国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
12.4%
14.4%
10.2%
0.0%
男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめること
17.7%
19.6%
15.3%
33.3%
家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
17.2%
18.4%
16.1%
0.0%
特に必要なことはない
2.0%
1.5%
2.7%
0.0%
その他
2.4%
2.1%
2.7%
0.0%
無回答
3.4%
2.8%
3.1%
0.0%

＜前回(H27)＞


全体
女性
男性
（N=518）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
49.0%
53.0%
43.6%
男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
11.4%
11.3%
11.5%
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
55.0%
57.0%
52.3%
年配者や周りの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
31.3%
36.0%
24.8%
社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること
36.9%
40.0%
32.6%
労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
50.8%
53.3%
47.2%
男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
27.2%
29.0%
24.8%
国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
11.6%
11.3%
11.9%
男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめること
14.7%
15.7%
13.3%
家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
14.5%
17.3%
10.6%
特に必要なことはない
2.5%
1.3%
4.1%
その他
2.7%
2.0%
3.7%
無回答
2.3%
3.3%
0.9%

＜熊本県(R1)＞


全体
女性
男性
（N=1,299）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
58.9%
61.4%
55.4%
男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
19.2%
22.1%
14.7%
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
68.1%
69.5%
66.4%
年配者や周りの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
36.8%
43.2%
27.8%
社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること
47.8%
52.3%
41.2%
労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
46.4%
47.8%
45.4%
男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
33.4%
35.7%
30.1%
国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
22.4%
23.2%
21.4%
男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめること
20.9%
22.0%
19.3%
家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
21.2%
22.0%
19.8%
特に必要なことはない
2.3%
3.9%
3.4%
その他
3.6%
3.9%
19.8%

２．仕事と家庭の両立支援の課題

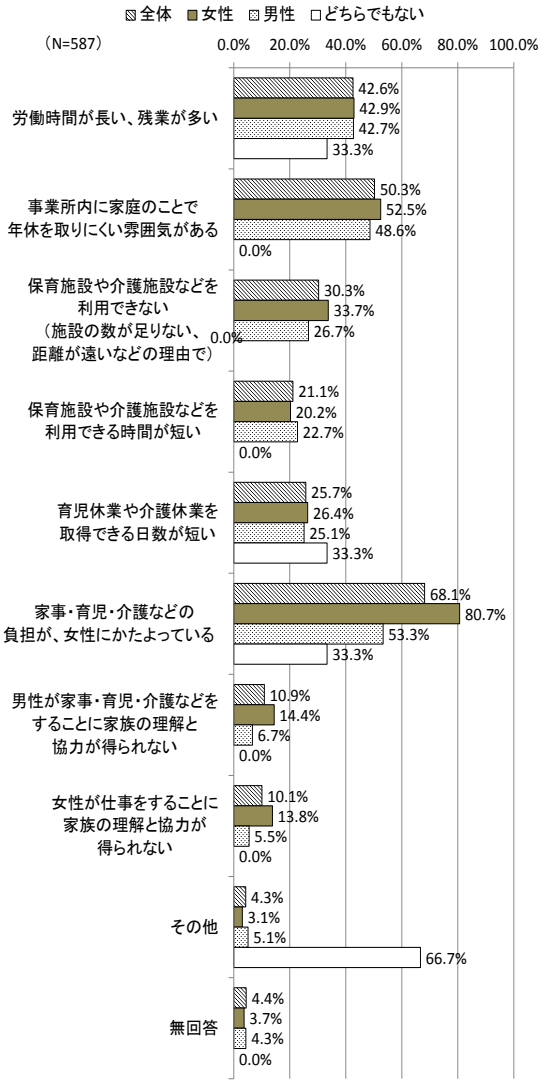
問１４	「少子高齢化が進む中で、仕事と育児や介護を両立することは、経済社会の活力を維持する上で、男女が安心して子どもを産み育て、家族の責任を果たせる社会を作る上でも重要だ」と言われています。あなたは、男女がともに仕事と家庭を両立させる上で、どんなことが問題になっていると思いますか。次の１～９の中から選び、○で囲んでください。（いくつでも）

仕事と家庭を両立させる上での問題については、「家事・育児・介護などの負担が女性にかたよっている」68.1%が最も多く、次いで、「事業所内に家庭のことで年休を取りにくい雰囲気がある」50.3%、「労働時間が長い、残業が多い」42.6%、「保育施設や介護施設などを利用できない（施設の数が足りない、距離が遠いなどの理由で）」30.3%の順であった。

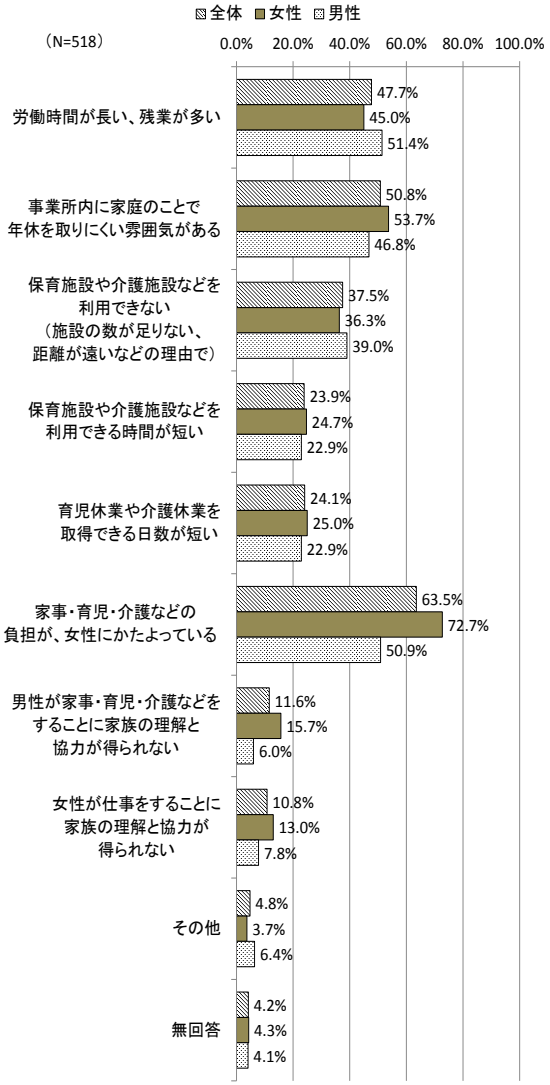
性別でみると、「家事・育児・介護などの負担が女性にかたよっている」は、男性 53.3%、女性 80.7%で女性が 27.4 ポイント高かった。

回答が多い順位や男女による結果の違いは、前回調査の結果とほぼ同様の構成である。

＜今回(R2)＞


全体
女性
男性
どちらでもない
（N=587）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
労働時間が長い、残業が多い
42.6%
42.9%
42.7%
33.3%
事業所内に家庭のことで年休を取りにくい雰囲気がある
50.3%
52.5%
48.6%
0.0%
保育施設や介護施設などを利用できない（施設の数が足りない、距離が遠いなどの理由で）
30.3%
33.7%
26.7%
0.0%
保育施設や介護施設などを利用できる時間が短い
21.1%
20.2%
22.7%
0.0%
育児休業や介護休業を取得できる日数が短い
25.7%
26.4%
25.1%
33.3%
家事・育児・介護などの負担が、女性にかたよっている
68.1%
80.7%
53.3%
33.3%
男性が家事・育児・介護などをすることに家族の理解と協力が得られない
10.9%
14.4%
6.7%
0.0%
女性が仕事をすることに家族の理解と協力が得られない
10.1%
13.8%
5.5%
0.0%
その他
4.3%
3.1%
5.1%
66.7%
無回答
4.4%
3.7%
4.3%
0.0%

＜前回(H27)＞


全体
女性
男性
（N=518）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
労働時間が長い、残業が多い
47.7%
45.0%
51.4%
事業所内に家庭のことで年休を取りにくい雰囲気がある
50.8%
53.7%
46.8%
保育施設や介護施設などを利用できない（施設の数が足りない、距離が遠いなどの理由で）
37.5%
36.3%
39.0%
保育施設や介護施設などを利用できる時間が短い
23.9%
24.7%
22.9%
育児休業や介護休業を取得できる日数が短い
24.1%
25.0%
22.9%
家事・育児・介護などの負担が、女性にかたよっている
63.5%
72.7%
50.9%
男性が家事・育児・介護などをすることに家族の理解と協力が得られない
11.6%
15.7%
6.0%
女性が仕事をすることに家族の理解と協力が得られない
10.8%
13.0%
7.8%
その他
4.8%
3.7%
6.4%
無回答
4.2%
4.3%
4.1%

３．仕事・家庭生活・地域生活の両立（理想と現実）

問１５	あなたの生活の中での優先度について、希望に最も近いもの及び現実（現状）に最も近いものを、次のア～イのそれぞれについて１つだけ選び、○で囲んでください。

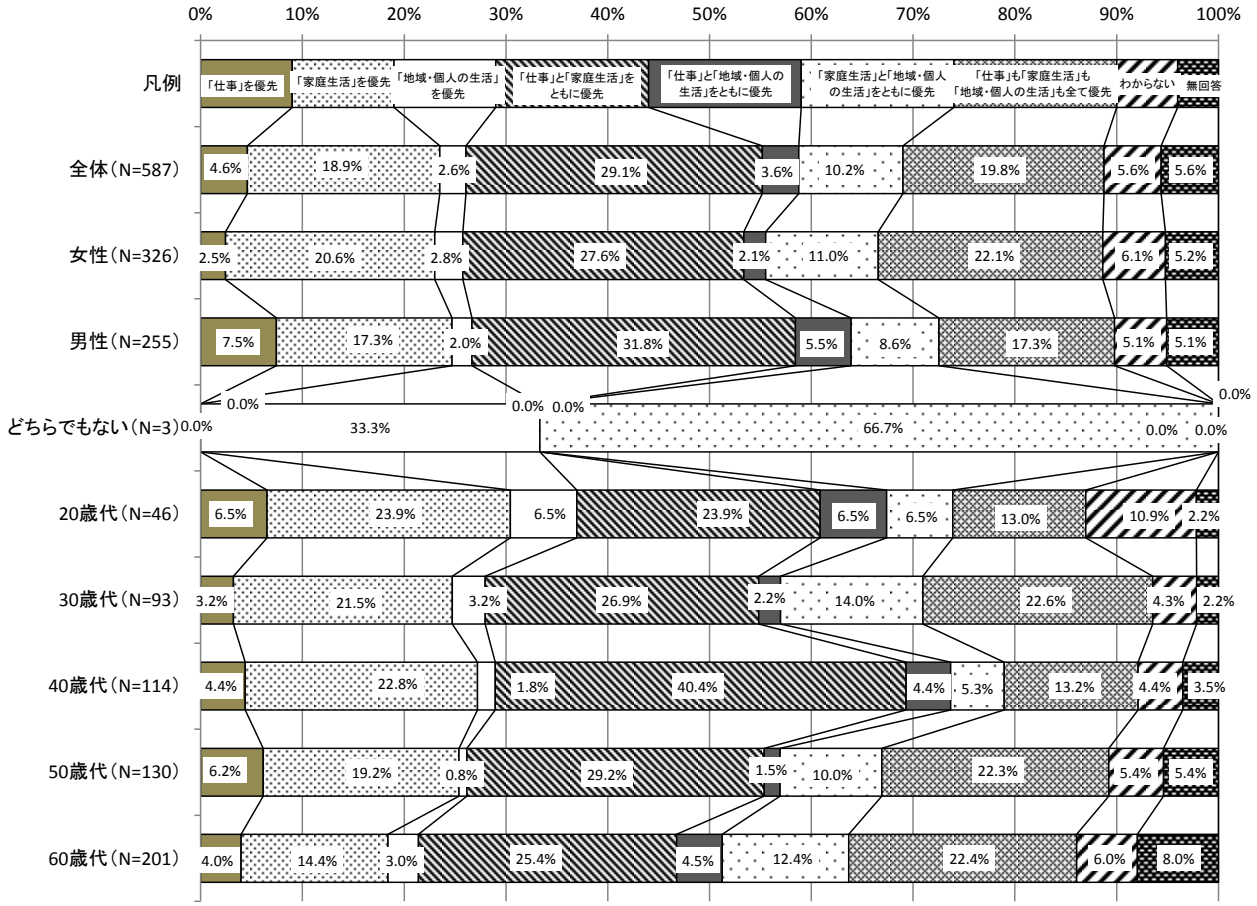
生活の中での優先度について、希望に最も近いものと現実（現状）に最も近いものに分けて回答を求めた。

生活の中での優先度の「希望に最も近いもの」で最も多かったのは、「仕事と家庭生活をともに優先」29.1％で約３割であった。次いで、「仕事も家庭生活も地域・個人の生活も全て優先」19.8％、「家庭生活を優先」18.9％が 2 割弱、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」10.2％であった。

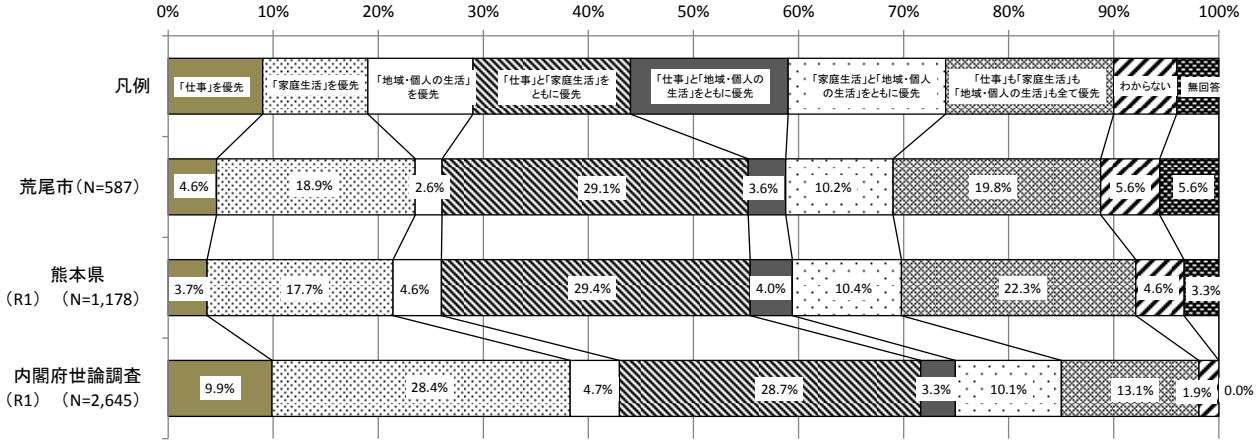
「現実（現状）に最も近いもの」では、「仕事を優先」33.7％が最も高く、次いで、「仕事と家庭生活をともに優先」23.9％となった。「仕事を優先」に関して、希望（4.6％）と現実（33.7％）では 29.1 ポイントの差、「仕事と家庭生活をともに優先」では希望（29.1％）、現実（23.9％）で 5.2 ポイントの差があった。

熊本県とは、現実の「仕事を優先」は 12.0 ポイント高く、内閣府調査とは、「家庭生活を優先」が 13.4 ポイント低い（内閣府 30.3％:荒尾市 16.9％）結果であった。荒尾市民は「家庭生活も優先」したい希望を持ちつつ、「仕事を優先」の現状にある傾向があった。

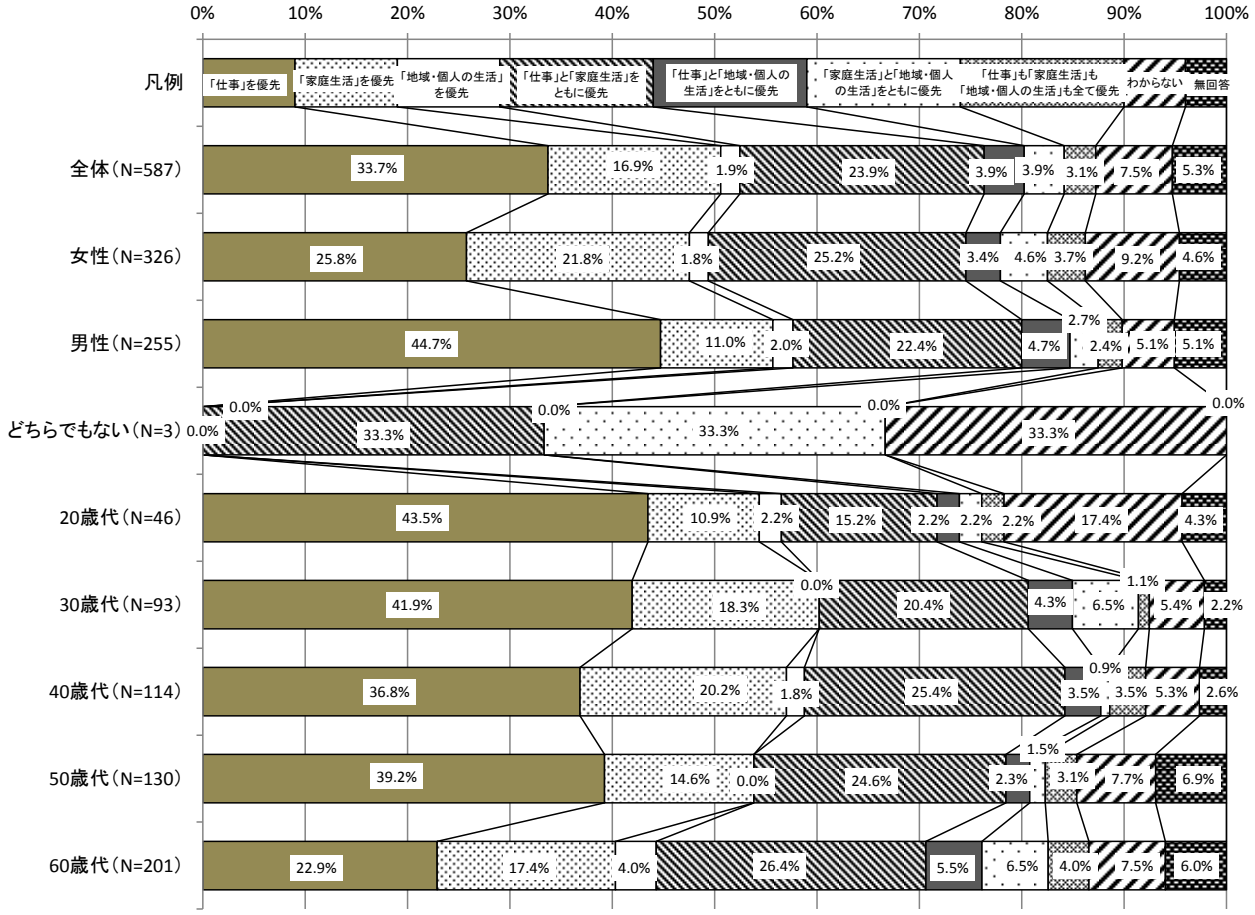
＜ア．希望に最も近いもの＞



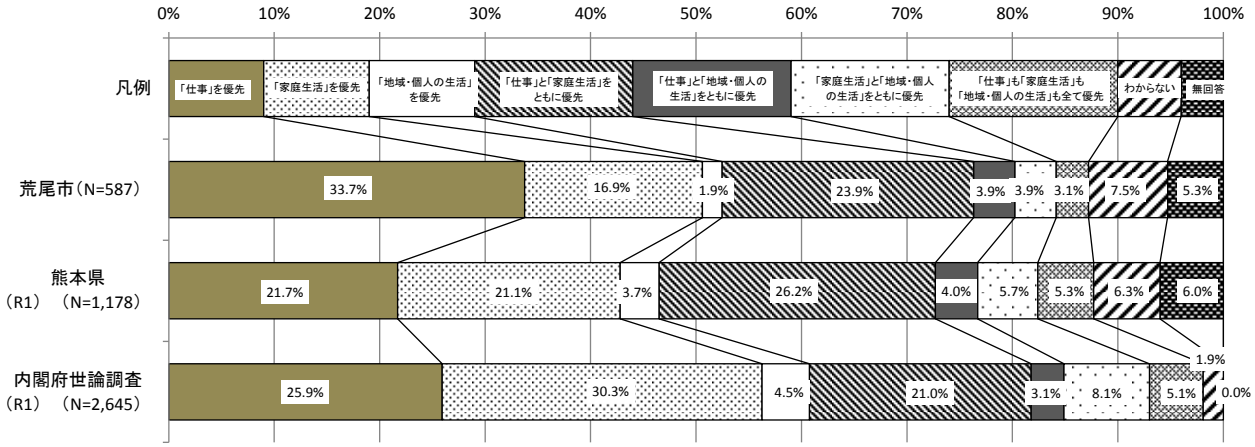
＜他統計結果との比較＞



＜イ．現実（現状）に最も近いもの＞



＜他統計結果との比較＞



第４章　暴力等について

１．職場におけるセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の原因

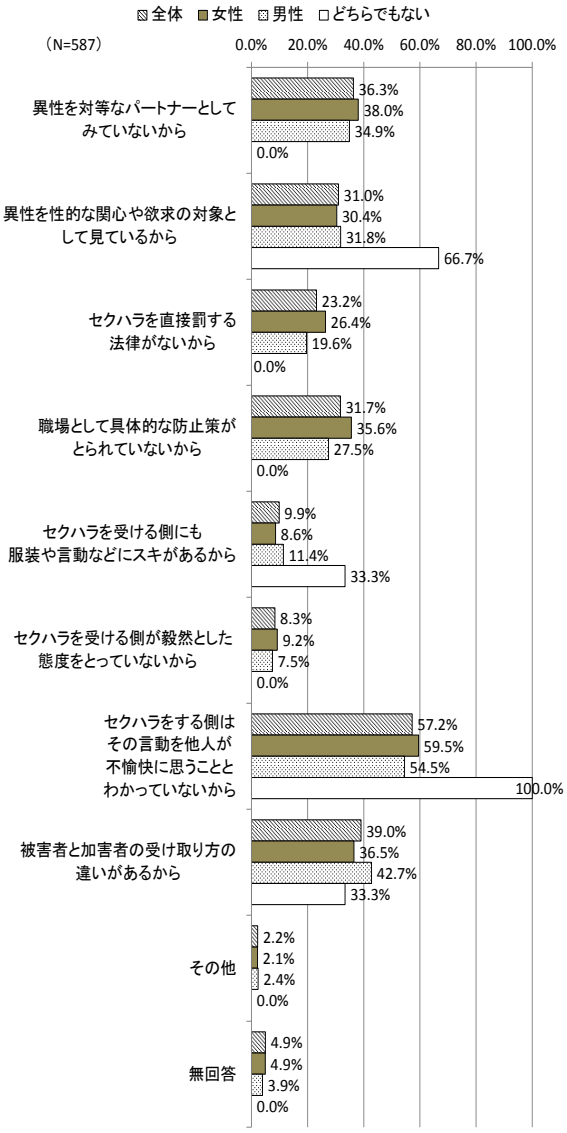
問１６　職場におけるセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の原因は何だと思いますか。次の１～９の中から選び、○で囲んでください。（いくつでも）

職場でのセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の原因と思うもので最も高かったのは、「セクハラをする側はその言動を他人が不愉快と思うこととわかっていないから」57.2%であった。次いで、「被害者と加害者の受け取り方の違いがあるから」39.0%、「異性を対等なパートナーとして見ていないから」36.3%、「職場として具体的な防止策がとられていないから」31.7%の順であった。

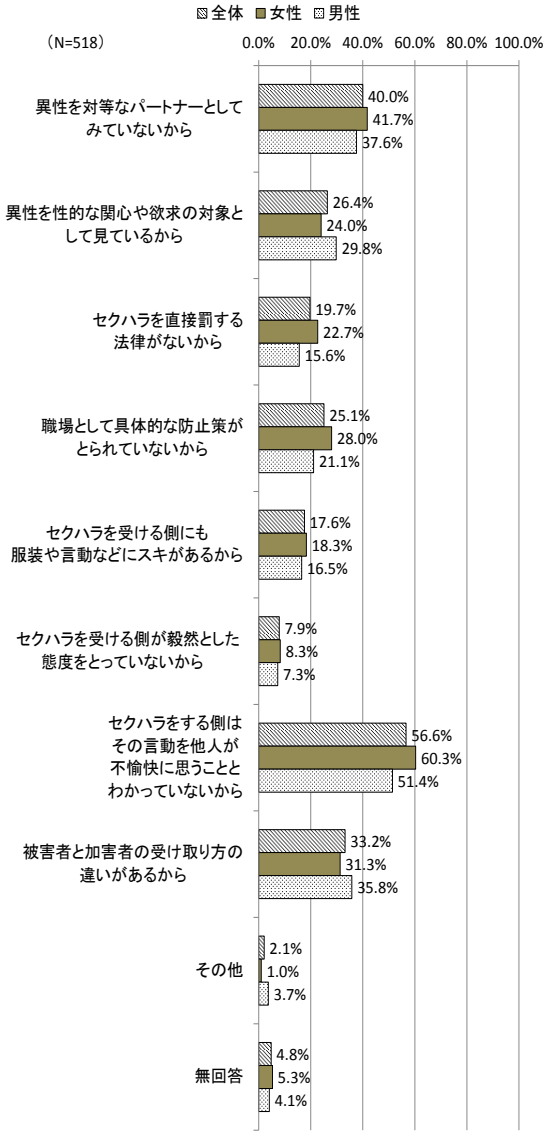
性別にみると、どちらも「セクハラをする側はその言動を他人が不愉快と思うこととわかってないから」が１位であるが、男性 54.5%、女性 59.5%と女性が 5.0 ポイント高かった。

前回調査との違いは、セクハラを受ける側に原因を求める項目のポイントが低くなっていることで、セクハラの発生源に対する理解が少し進んでいることが推測された。

＜今回(R2)＞


全体
女性
男性
どちらでもない
（N=587）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
異性を対等なパートナーとしてみていないから
36.3%
38.0%
34.9%
0.0%
異性を性的な関心や欲求の対象として見ているから
31.0%
30.4%
31.8%
66.7%
セクハラを直接罰する法律がないから
23.2%
26.4%
19.6%
0.0%
職場として具体的な防止策がとられていないから
31.7%
35.6%
27.5%
0.0%
セクハラを受ける側にも服装や言動などにスキがあるから
9.9%
8.6%
11.4%
33.3%
セクハラを受ける側が毅然とした態度をとっていないから
8.3%
9.2%
7.5%
0.0%
セクハラをする側はその言動を他人が不愉快に思うこととわかっていないから
57.2%
59.5%
54.5%
100.0%
被害者と加害者の受け取り方の違いがあるから
39.0%
36.5%
42.7%
33.3%
その他
2.2%
2.1%
2.4%
0.0%
無回答
4.9%
4.9%
3.9%
0.0%

＜前回(H27)＞


全体
女性
男性
（N=518）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
異性を対等なパートナーとしてみていないから
40.0%
41.7%
37.6%
異性を性的な関心や欲求の対象として見ているから
26.4%
24.0%
29.8%
セクハラを直接罰する法律がないから
19.7%
22.7%
15.6%
職場として具体的な防止策がとられていないから
25.1%
28.0%
21.1%
セクハラを受ける側にも服装や言動などにスキがあるから
17.6%
18.3%
16.5%
セクハラを受ける側が毅然とした態度をとっていないから
7.9%
8.3%
7.3%
セクハラをする側はその言動を他人が不愉快に思うこととわかっていないから
56.6%
60.3%
51.4%
被害者と加害者の受け取り方の違いがあるから
33.2%
31.3%
35.8%
その他
2.1%
1.0%
3.7%
無回答
4.8%
5.3%
4.1%

２．ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）の言葉の認知度

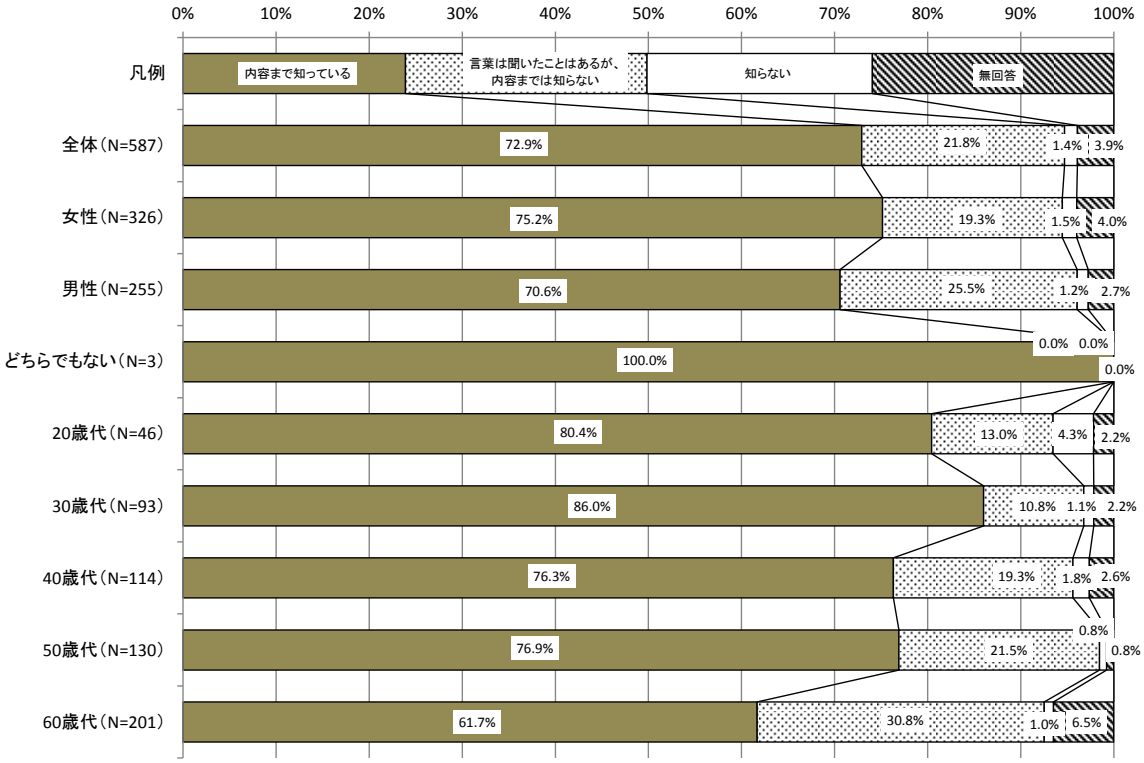
問１７　ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）について、あなたはどの程度ご存知ですか。次の１～３の中から１つだけ選び、○で囲んでください。

ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）について、「内容まで知っている」72.9％で4分の3近くを占めた。「言葉は聞いたことはあるが、内容までは知らない」「知らない」は合わせて23.2％にとどまった。

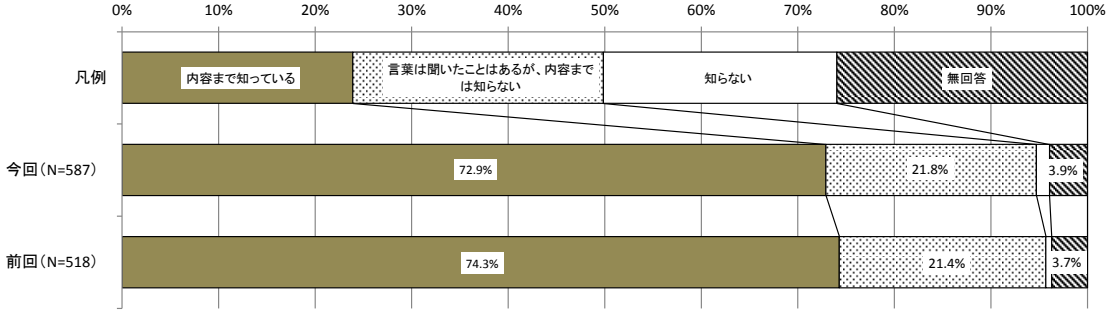
性別では、「内容まで知っている」は男性70.6％に対して、女性75.2％となった。

年代別にみると、「内容まで知っている」は30歳代86.0％、20歳代80.4％が高く、60 歳代では「言葉は聞いたことはあるが、内容までは知らない」30.8％が全世代の中で最も高かった。

「内容まで知っている」という認知度については、前回調査とほぼ同じだった。



＜前回との比較＞



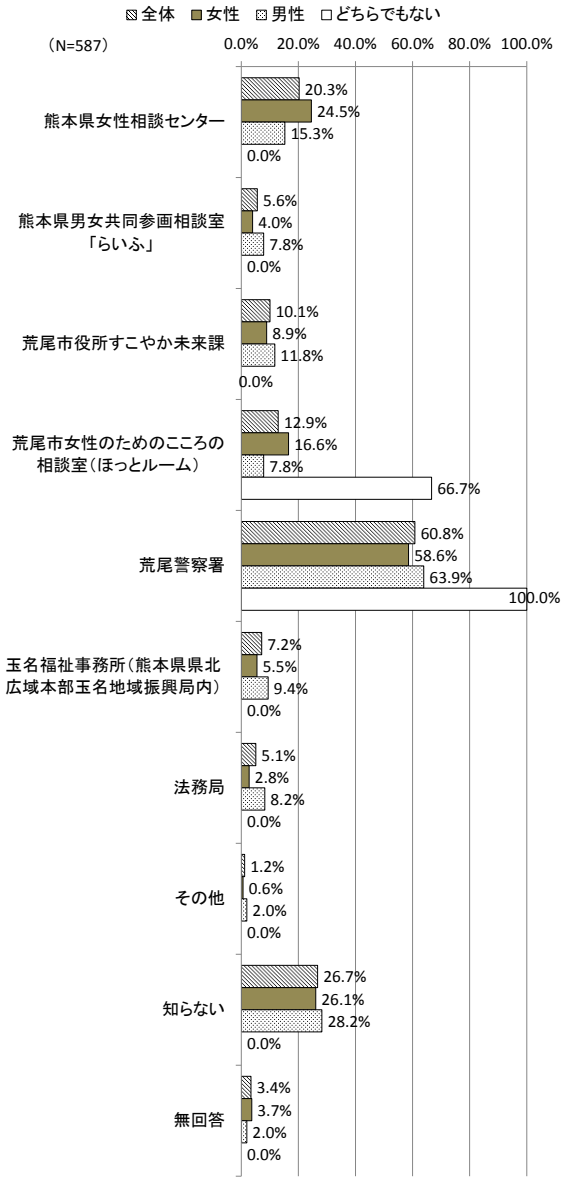
３．ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）の相談機関の認知度

問１８　ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）に関する問題を相談できる機関についてご存知の相談機関を次の１～９の中から選び、○で囲んでください。（いくつでも）

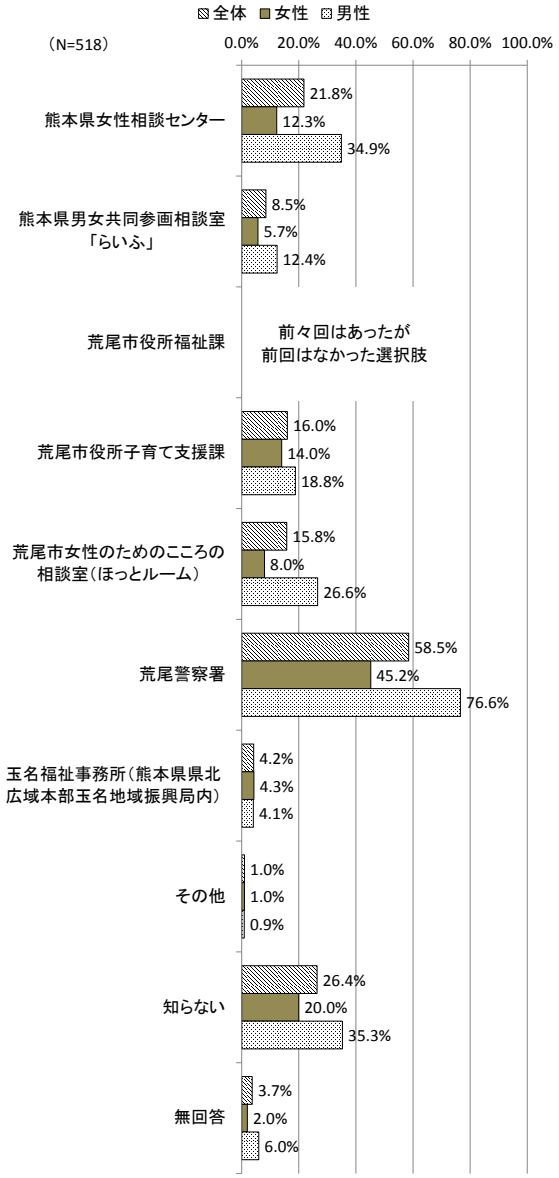
ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）に関する問題を相談できる 7 つの機関について、「荒尾警察署」は 60.8％の人が知っていた。次に「熊本県女性相談センター」20.3％、「荒尾市女性のためのこころの相談室（ほっとルーム）」12.9％、「荒尾市役所すこやか未来課」10.1％であった。機関をすべて「知らない」と答えた人は 26.7％で、回答者の 4 分の 1 以上にあたる。

男女別にみると、「熊本県女性相談センター」と「荒尾市女性のためのこころの相談室（ほっとルーム）」を除く機関の認知度は男性の方が高い結果となった。

＜今回(R2)＞


全体
女性
男性
どちらでもない
（N=587）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
熊本県女性相談センター
20.3%
24.5%
15.3%
0.0%
熊本県男女共同参画相談室「らいふ」
5.6%
4.0%
7.8%
0.0%
荒尾市役所すこやか未来課
10.1%
8.9%
11.8%
0.0%
荒尾市女性のためのこころの相談室（ほっとルーム）
12.9%
16.6%
7.8%
66.7%
荒尾警察署
60.8%
58.6%
63.9%
100.0%
玉名福祉事務所（熊本県県北広域本部玉名地域振興局内）
7.2%
5.5%
9.4%
0.0%
法務局
5.1%
2.8%
8.2%
0.0%
その他
1.2%
0.6%
2.0%
0.0%
知らない
26.7%
26.1%
28.2%
0.0%
無回答
3.4%
3.7%
2.0%
0.0%

＜前回(H27)＞


全体
女性
男性
（N=518）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
熊本県女性相談センター
21.8%
12.3%
34.9%
熊本県男女共同参画相談室「らいふ」
8.5%
5.7%
12.4%
荒尾市役所福祉課
前々回はあったが前回はなかった選択肢
荒尾市役所子育て支援課
16.0%
14.0%
18.8%
荒尾市女性のためのこころの相談室（ほっとルーム）
15.8%
8.0%
26.6%
荒尾警察署
58.5%
45.2%
76.6%
玉名福祉事務所（熊本県県北広域本部玉名地域振興局内）
4.2%
4.3%
4.1%
その他
1.0%
1.0%
0.9%
知らない
26.4%
20.0%
35.3%
無回答
3.7%
2.0%
6.0%

４．ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）をなくすために必要なこと

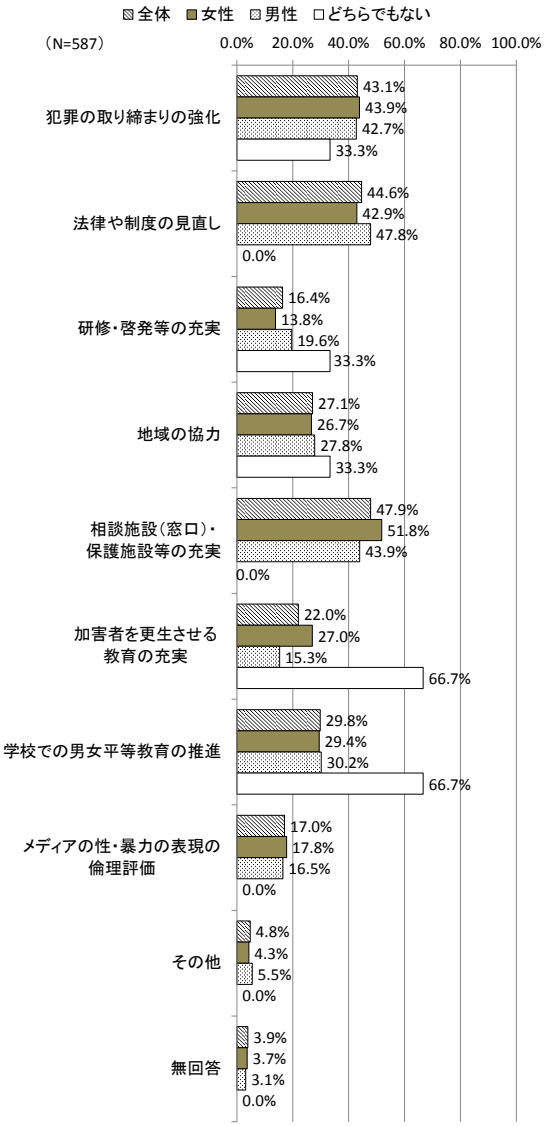
問１９　ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）をなくすために必要なことは何だと思われますか。次の１～９の中から選び、○で囲んでください。（いくつでも）

ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）をなくすために必要なことで、最も多く回答があったのは、「相談施設（窓口）・保護施設等の充実」47.9%、次いで「法律や制度の見直し」44.6%、「犯罪の取り締まりの強化」43.1%、「学校での男女平等の教育の推進」29.8%の順であった。

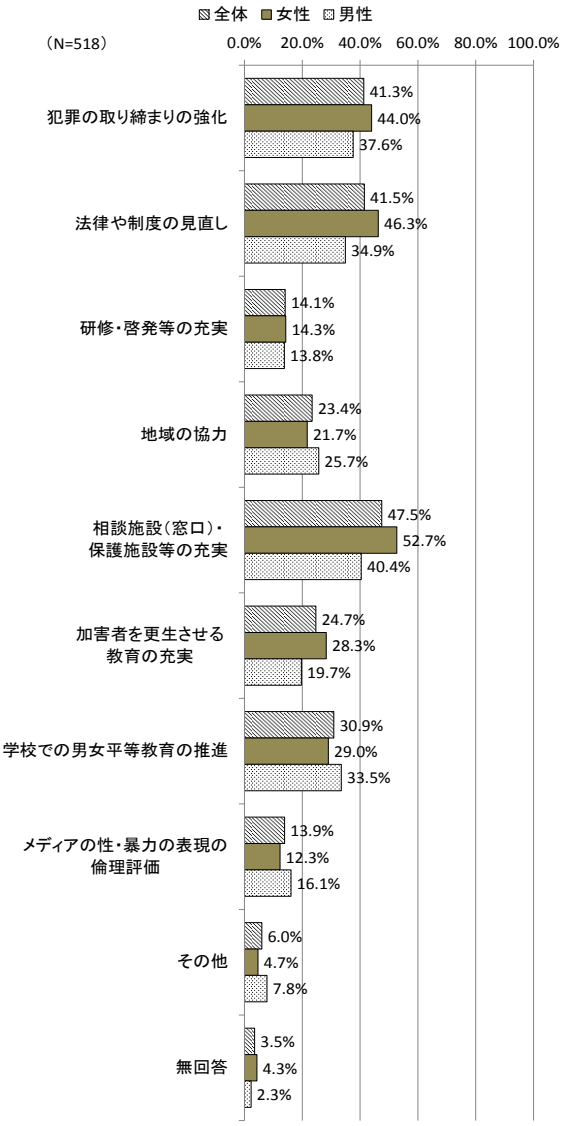
性別では、「相談施設（窓口）・保護施設の充実」は男性 43.9%に対して、女性 51.8%で女性が 7.9 ポイント高かった。

前回調査との違いは「法律や制度の見直し」が 3.1 ポイント、「地域の協力」が 3.7 ポイント、「メディアの性・暴力の表現の倫理評価」が 3.1 ポイント、それぞれ高くなったことであり、熊本県の結果との違いは「犯罪の取り締まりの強化」、「法律や制度の見直し」について荒尾市民の方が高かったことである。

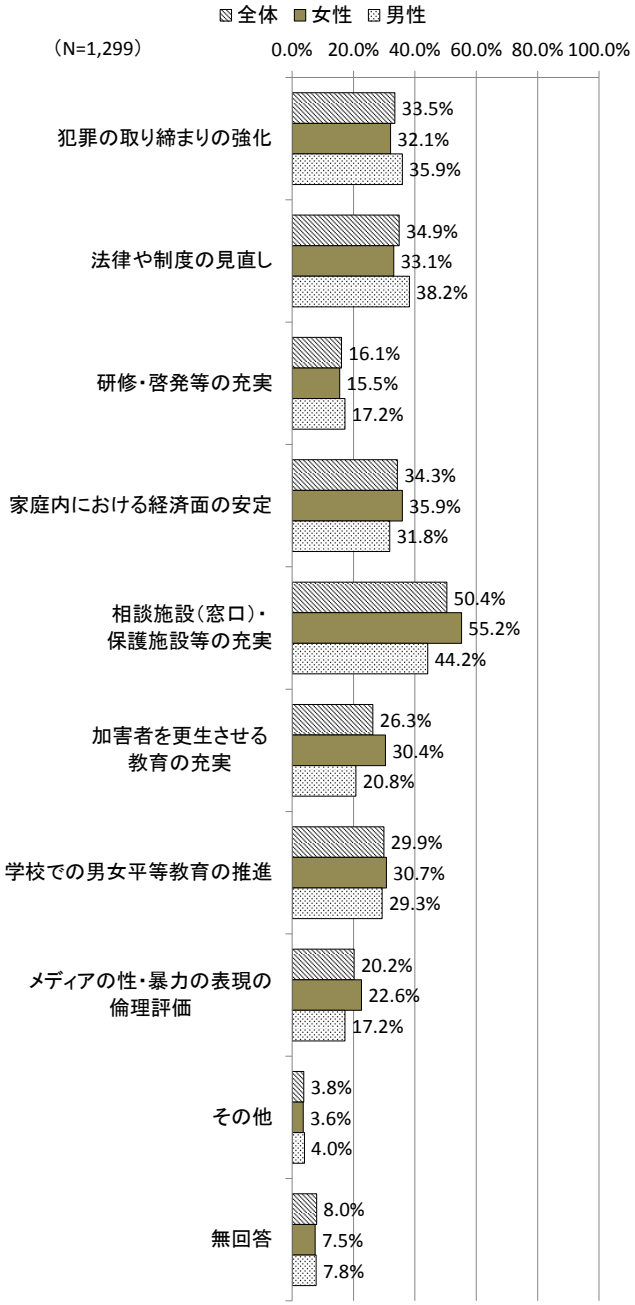
＜今回(R2)＞


全体
女性
男性
どちらでもない
（N=587）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
犯罪の取り締まりの強化
43.1%
43.9%
42.7%
33.3%
法律や制度の見直し
44.6%
42.9%
47.8%
0.0%
研修・啓発等の充実
16.4%
13.8%
19.6%
33.3%
地域の協力
27.1%
26.7%
27.8%
33.3%
相談施設（窓口）・保護施設等の充実
47.9%
51.8%
43.9%
0.0%
加害者を更生させる教育の充実
22.0%
27.0%
15.3%
66.7%
学校での男女平等教育の推進
29.8%
29.4%
30.2%
66.7%
メディアの性・暴力の表現の倫理評価
17.0%
17.8%
16.5%
0.0%
その他
4.8%
4.3%
5.5%
0.0%
無回答
3.9%
3.7%
3.1%
0.0%

＜前回(H27)＞


全体
女性
男性
（N=518）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
犯罪の取り締まりの強化
41.3%
44.0%
37.6%
法律や制度の見直し
41.5%
46.3%
34.9%
研修・啓発等の充実
14.1%
14.3%
13.8%
地域の協力
23.4%
21.7%
25.7%
相談施設（窓口）・保護施設等の充実
47.5%
52.7%
40.4%
加害者を更生させる教育の充実
24.7%
28.3%
19.7%
学校での男女平等教育の推進
30.9%
29.0%
33.5%
メディアの性・暴力の表現の倫理評価
13.9%
12.3%
16.1%
その他
6.0%
4.7%
7.8%
無回答
3.5%
4.3%
2.3%

＜熊本県(R1)＞


全体
女性
男性
（N=1,299）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
犯罪の取り締まりの強化
33.5%
32.1%
35.9%
法律や制度の見直し
34.9%
33.1%
38.2%
研修・啓発等の充実
16.1%
15.5%
17.2%
家庭内における経済面の安定
34.3%
35.9%
31.8%
相談施設（窓口）・保護施設等の充実
50.4%
55.2%
44.2%
加害者を更生させる教育の充実
26.3%
30.4%
20.8%
学校での男女平等教育の推進
29.9%
30.7%
29.3%
メディアの性・暴力の表現の倫理評価
20.2%
22.6%
17.2%
その他
3.8%
3.6%
4.0%
無回答
8.0%
7.5%
7.8%

５．ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）の被害経験

問２０～問２２は、配偶者やパートナーがいる（いた）方におたずねします。
該当しない方は、問２３にお進みください。
※ここでの「配偶者やパートナー」とは、夫、妻、元夫、元妻、同棲相手など、一定期間親密な関係のある（あった）相手をさします。

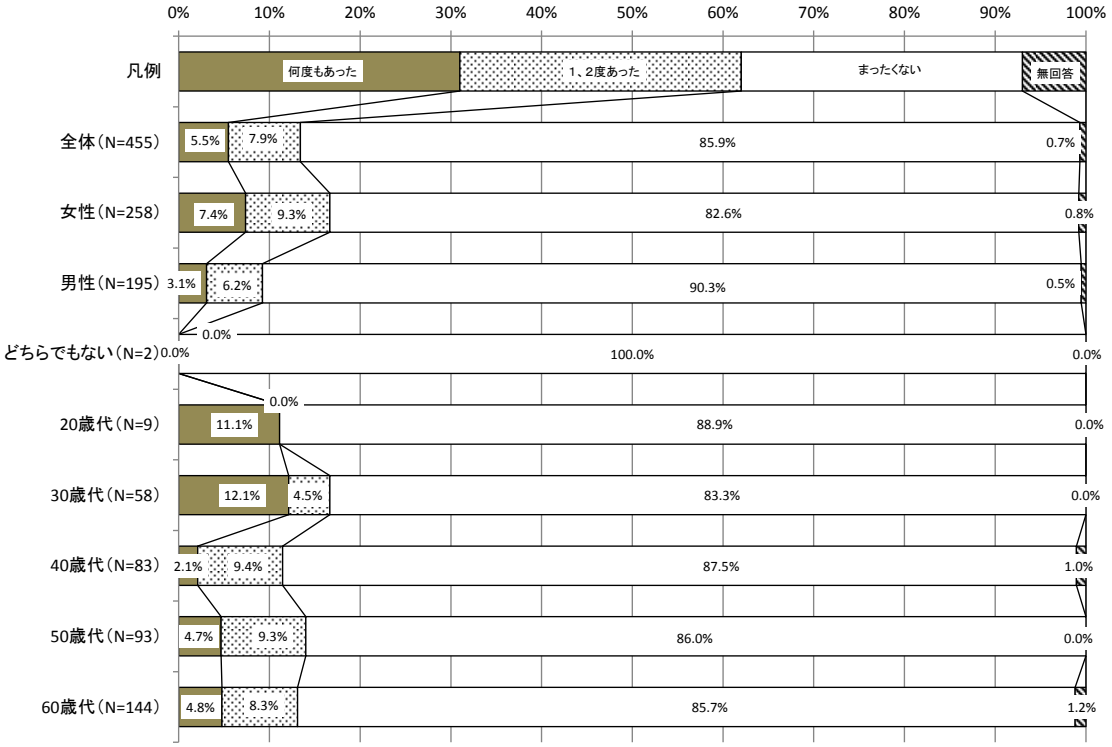
問２０　あなたは、配偶者やパートナーからＤＶを受けたことがありますか。次の１～３の中から１つだけ選び、○で囲んでください。

パートナーから「ＤＶを受けたことがある」（何度もあった 5.5%＋１、２度あった 7.9%）は 13.4%で１割を超えた。

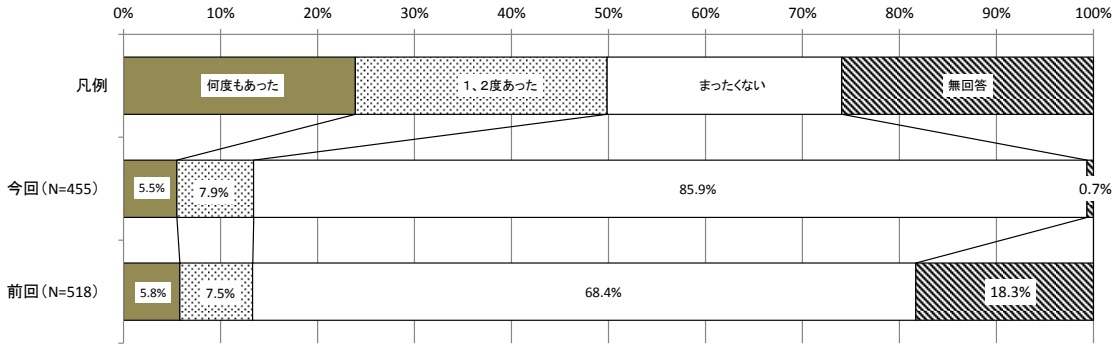
男女別では、「ＤＶを受けたことがある」男性は 9.3%（3.1%＋6.2%）、女性は 16.7%（7.4%＋9.3%）と女性の方が 7.4 ポイント高かった。

年代別にみると、「ＤＶを受けたことがある」のは 30 歳代 16.6%（12.1%＋4.5%）、50 歳代 14.0%（4.7%＋9.3%）、60 歳代 13.1%（4.8%＋8.3%）、40 歳代 11.5%（2.1%＋9.4%）、20 歳代 11.1%（11.1%＋0.0%）の順で、30 歳代が最も高かった。

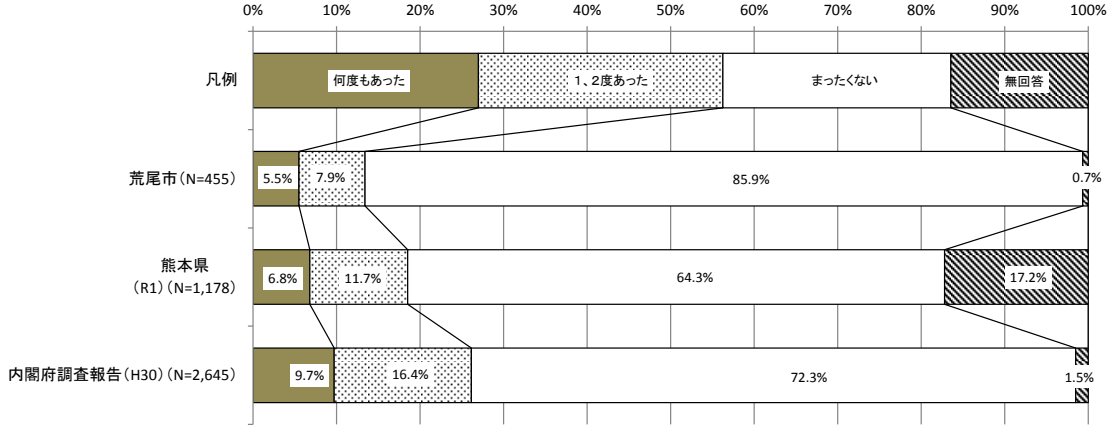
前回調査の「ＤＶを受けたことがある」13.3%（何度もあった 5.8%＋１、２度あった 7.5%）と今回調査ではほぼ同じとなったが、「まったくない」が 17.5 ポイント高くなっている。熊本県の結果と比較しても、「ＤＶを受けたことがある」は 5.1 ポイント低く、「まったくない」は 21.6 ポイントも高かった。



＜前回との比較＞



＜他統計結果との比較＞



６．ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）相談状況

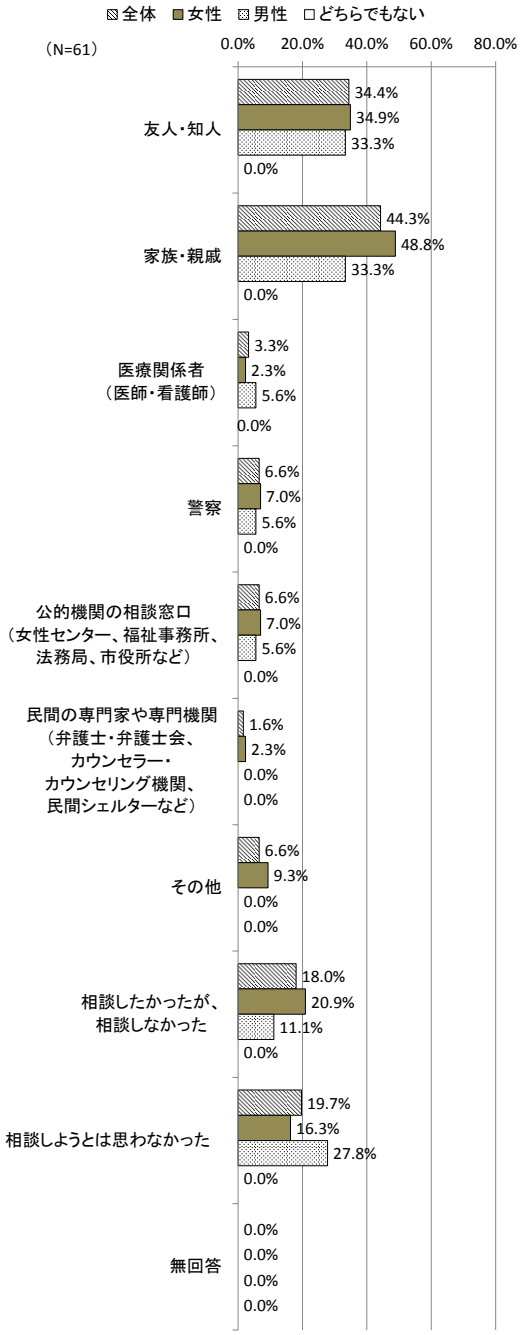
問２１	問２０で「１．何度もあった」又は「２．１、２度あった」と答えた方におたずねします。そのことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の１～９の中から選び、○で囲んでください。（いくつでも）

問２０で「１．何度もあった」又は「２．１、２度あった」と答えた方 61 人を対象に聞いている。

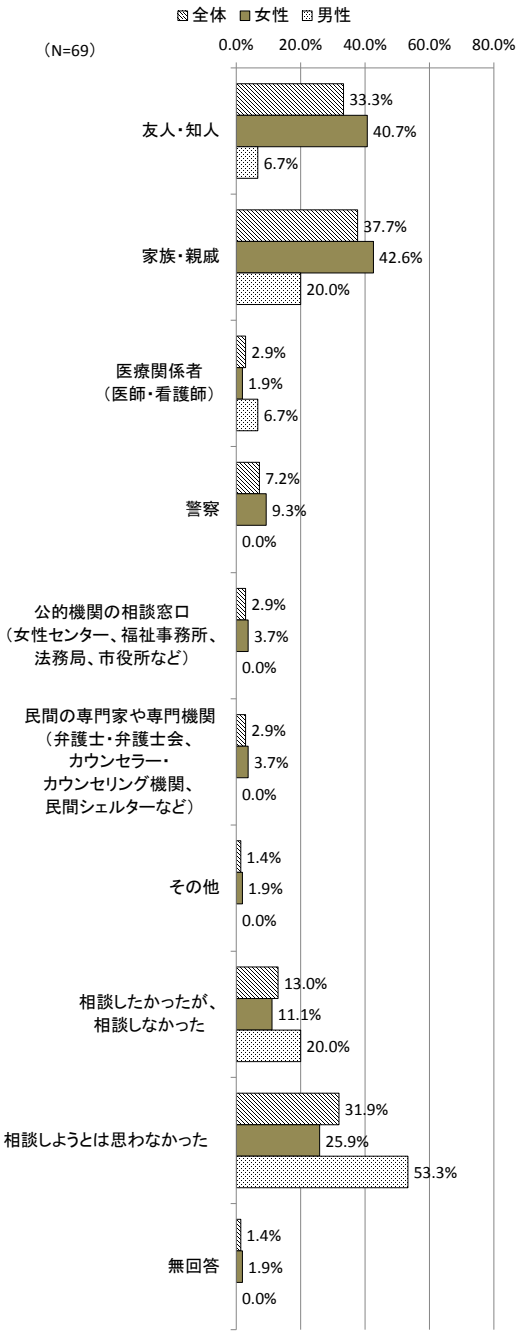
相談相手として最も多いのは「家族・親戚」44.3%、次に「友人・知人」34.4%、「警察」は 6.6%であった。「相談したかったが、相談しなかった」18.0%、「相談しようとは思わなかった」19.7%であり、「相談しない、しようと思わない」という姿勢が 4 割近くあった。性別で大きな違いがみられ「家族・親戚」は女性が 15.5 ポイント高い。

前回調査と大きな違いはみられないが、「家族・親戚」への相談が 6.6 ポイント高くなり、「相談しようとは思わなかった」人は 12.2 ポイント低くなった。

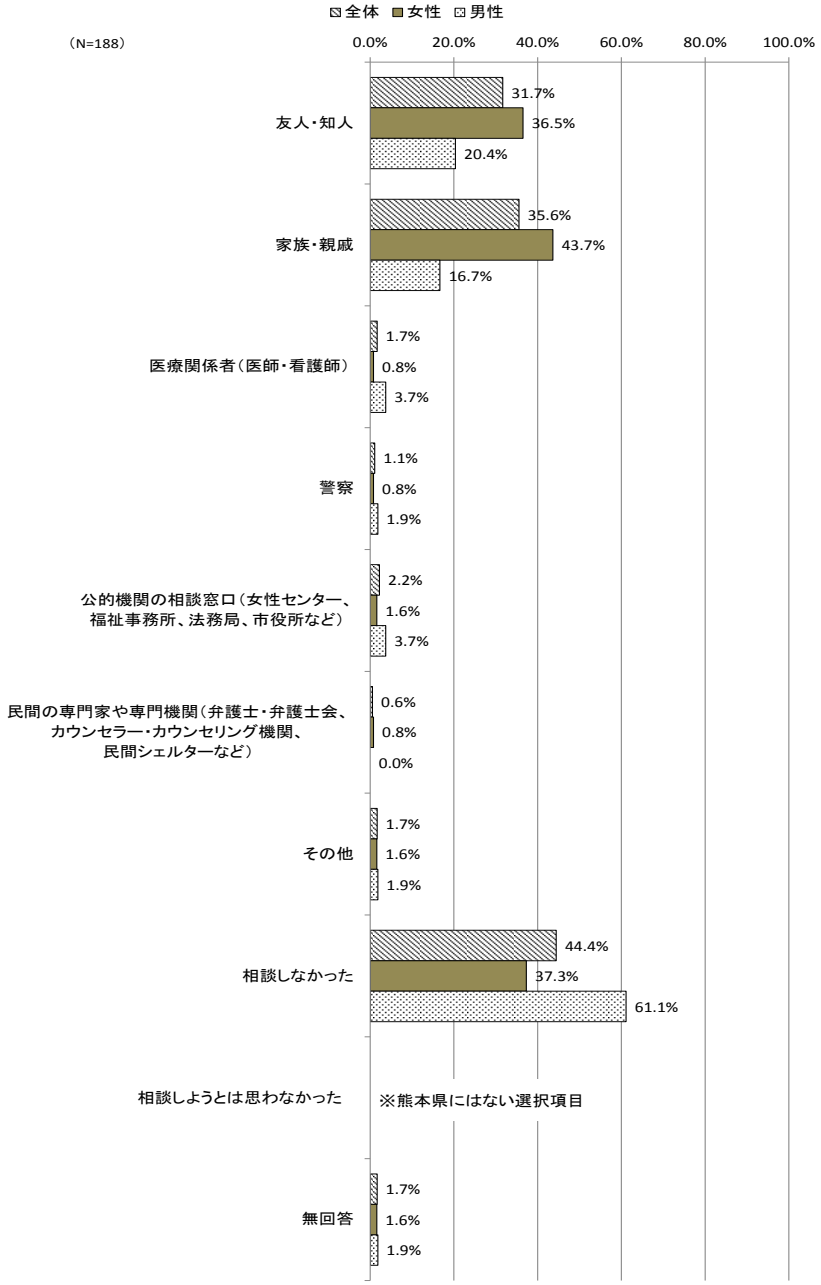
＜今回(R2)＞


全体
女性
男性
どちらでもない
（N=61）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
友人・知人
34.4%
34.9%
33.3%
0.0%
家族・親戚
44.3%
48.8%
33.3%
0.0%
医療関係者
（医師・看護師）
3.3%
2.3%
5.6%
0.0%
警察
6.6%
7.0%
5.6%
0.0%
公的機関の相談窓口
（女性センター、福祉事務所、
法務局、市役所など）
6.6%
7.0%
5.6%
0.0%
民間の専門家や専門機関
（弁護士・弁護士会、
カウンセラー・
カウンセリング機関、
民間シェルターなど）
1.6%
2.3%
0.0%
0.0%
その他
6.6%
9.3%
0.0%
0.0%
相談したかったが、
相談しなかった
18.0%
20.9%
11.1%
0.0%
相談しようとは思わなかった
19.7%
16.3%
27.8%
0.0%
無回答
0.0%
0.0%
0.0%
0.0%

＜前回(H27)＞


全体
女性
男性
（N=69）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
友人・知人
33.3%
40.7%
6.7%
家族・親戚
37.7%
42.6%
20.0%
医療関係者
（医師・看護師）
2.9%
1.9%
6.7%
警察
7.2%
9.3%
0.0%
公的機関の相談窓口
（女性センター、福祉事務所、
法務局、市役所など）
2.9%
3.7%
0.0%
民間の専門家や専門機関
（弁護士・弁護士会、
カウンセラー・
カウンセリング機関、
民間シェルターなど）
2.9%
3.7%
0.0%
その他
1.4%
1.9%
0.0%
相談したかったが、
相談しなかった
13.0%
11.1%
20.0%
相談しようとは思わなかった
31.9%
25.9%
53.3%
無回答
1.4%
1.9%
0.0%

＜熊本県(R1)＞


全体
女性
男性
（N=188）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
友人・知人
31.7%
36.5%
20.4%
家族・親戚
35.6%
43.7%
16.7%
医療関係者（医師・看護師）
1.7%
0.8%
3.7%
警察
1.1%
0.8%
1.9%
公的機関の相談窓口（女性センター、福祉事務所、法務局、市役所など）
2.2%
1.6%
3.7%
民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）
0.6%
0.8%
0.0%
その他
1.7%
1.6%
1.9%
相談しなかった
44.4%
37.3%
61.1%
相談しようとは思わなかった
※熊本県にはない選択項目
無回答
1.7%
1.6%
1.9%

７．ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）を相談しなかった理由

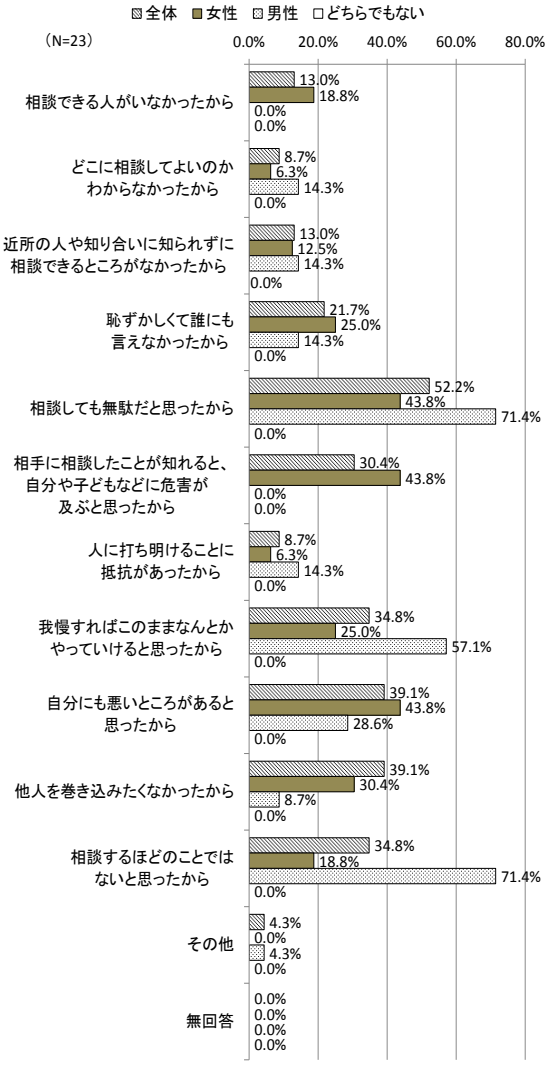
問２２	問２１で「８．相談したかったが、相談しなかった」「９．相談しようとは思わなかった」と回答した方におたずねします。その理由としてあてはまるものを次の１～１２の中から選び、○で囲んでください。（いくつでも）

23 人の相談しなかった理由で最も多かったものは、「相談しても無駄だと思ったから」52.2%、次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」39.1%、「他人を巻き込みたくなかったから」39.1%、「我慢すればなんとかやっていけると思ったから」34.8%、「相談するほどのことではないと思ったから」34.8%であった。

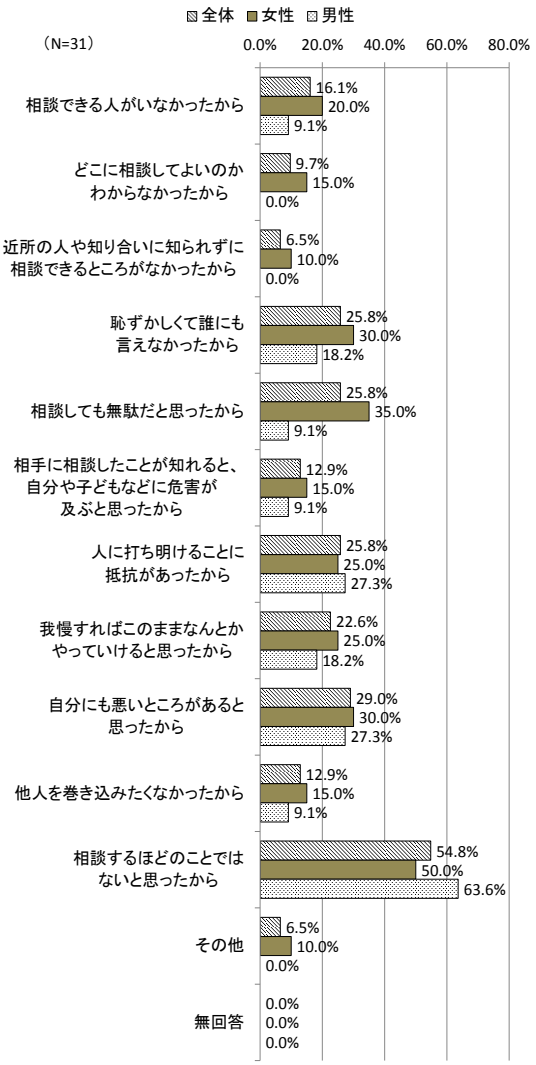
性別の男性では、「相談しても無駄だと思ったから」と「相談するほどのことではない」が多く、女性 では、「他人を巻き込みたくなかったから」がもっとも高かった。

前回調査とは「相談するほどのことではないと思ったから」が 20.0 ポイント低くなっている。

＜今回(R2)＞


全体
女性
男性
どちらでもない
（N=23）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
相談できる人がいなかったから
13.0%
18.8%
0.0%
0.0%
どこに相談してよいのか わからなかったから
8.7%
6.3%
14.3%
0.0%
近所の人や知り合いに知られずに 相談できるところがなかったから
13.0%
12.5%
14.3%
0.0%
恥ずかしくて誰にも 言えなかったから
21.7%
25.0%
14.3%
0.0%
相談しても無駄だと思ったから
52.2%
43.8%
71.4%
0.0%
相手に相談したことが知れると、 自分や子どもなどに危害が 及ぶと思ったから
30.4%
43.8%
0.0%
0.0%
人に打ち明けることに 抵抗があったから
8.7%
6.3%
14.3%
0.0%
我慢すればこのままなんとか やっていけると思ったから
34.8%
25.0%
57.1%
0.0%
自分にも悪いところがあると 思ったから
39.1%
43.8%
28.6%
0.0%
他人を巻き込みたくなかったから
39.1%
30.4%
8.7%
0.0%
相談するほどのことでは ないと思ったから
34.8%
18.8%
71.4%
0.0%
その他
4.3%
0.0%
4.3%
0.0%
無回答
0.0%
0.0%
0.0%
0.0%

＜前回(H27)＞


全体
女性
男性
（N=31）
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
相談できる人がいなかったから
16.1%
20.0%
9.1%
どこに相談してよいのか わからなかったから
9.7%
15.0%
0.0%
近所の人や知り合いに知られずに 相談できるところがなかったから
6.5%
10.0%
0.0%
恥ずかしくて誰にも 言えなかったから
25.8%
30.0%
18.2%
相談しても無駄だと思ったから
25.8%
35.0%
9.1%
相手に相談したことが知れると、 自分や子どもなどに危害が 及ぶと思ったから
12.9%
15.0%
9.1%
人に打ち明けることに 抵抗があったから
25.8%
25.0%
27.3%
我慢すればこのままなんとか やっていけると思ったから
22.6%
25.0%
18.2%
自分にも悪いところがあると 思ったから
29.0%
30.0%
27.3%
他人を巻き込みたくなかったから
12.9%
15.0%
9.1%
相談するほどのことでは ないと思ったから
54.8%
50.0%
63.6%
その他
6.5%
10.0%
0.0%
無回答
0.0%
0.0%
0.0%